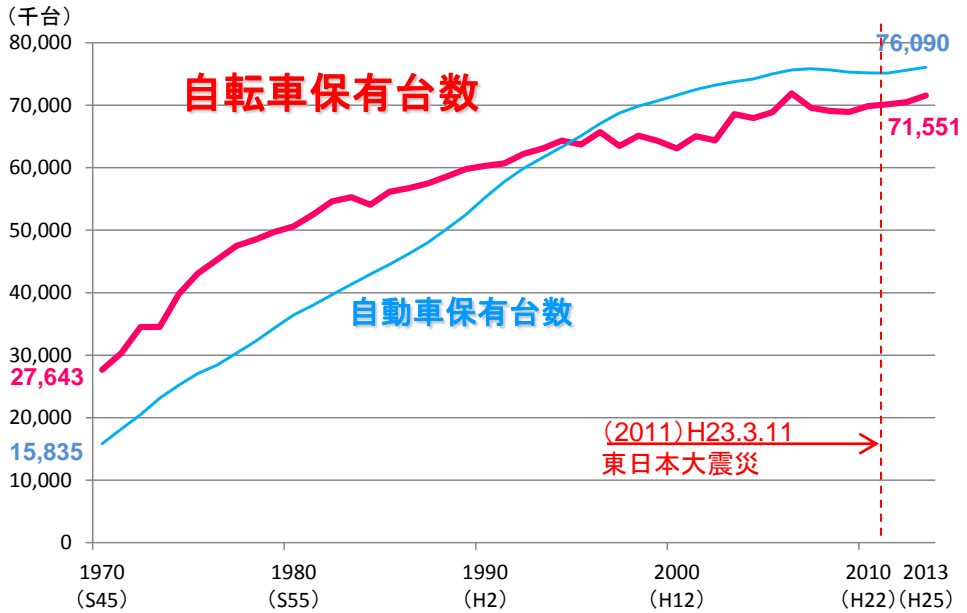


自転車施策をとりまく環境

自転車利用の増加

- 我が国の自転車の保有台数は、自動車と同程度(約7,200万台)で増加中。
- 自転車分担率は、世界と比較しても高い水準。

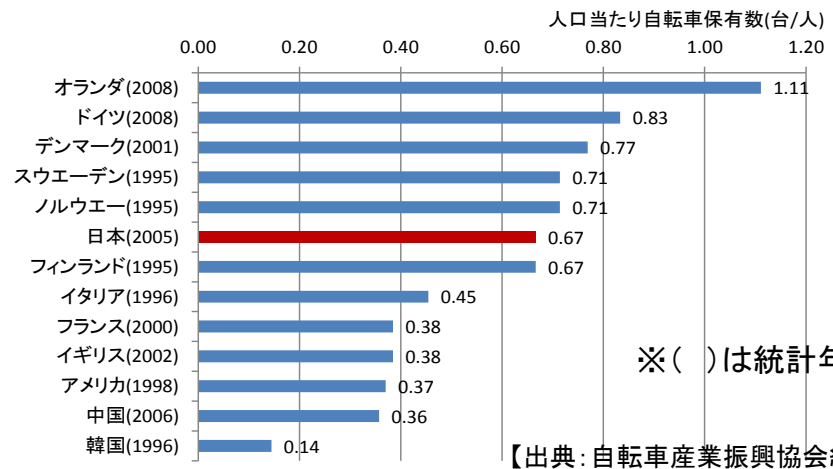
■ 自転車保有台数の推移



※自転車保有台数は標本調査による推計値。自動車保有台数は二輪車を除く、各年3月の登録台数。

【出典：自転車(S45~H20)(社)自転車協会、自転車(H21~H25)(財)自転車産業振興協会、自動車(財)自動車検査登録情報協会】

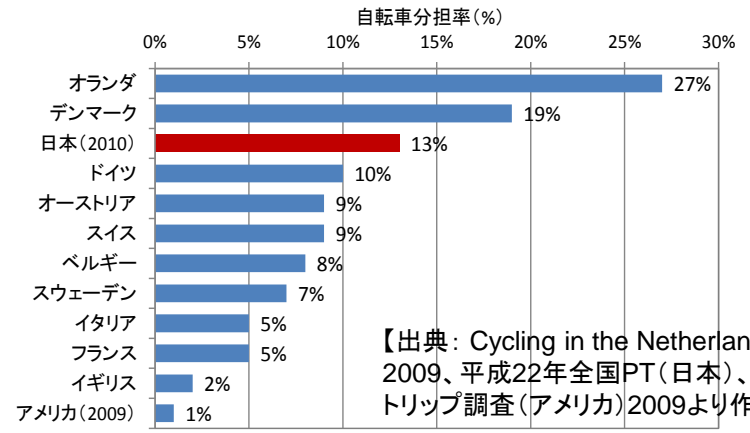
■ 人口当たり自転車保有台数(国際比較)



※()は統計年次

【出典：自転車産業振興協会統計要覧43】

■ 自転車分担率の国別比較

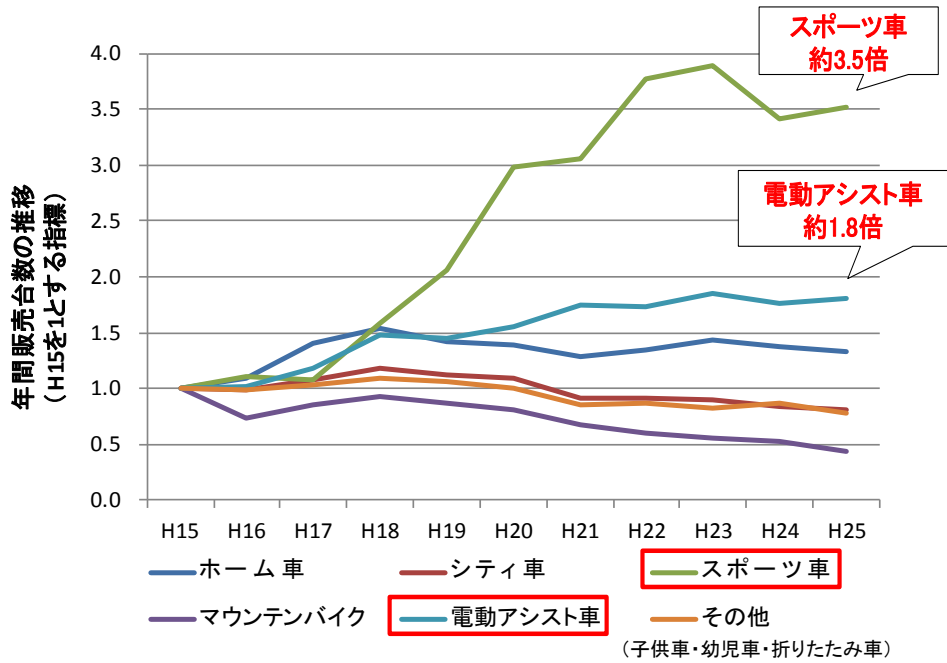


【出典：Cycling in the Netherlands(欧州)2009、平成22年全国PT(日本)、全米世帯トリップ調査(アメリカ)2009より作成】

自転車利用の多様化

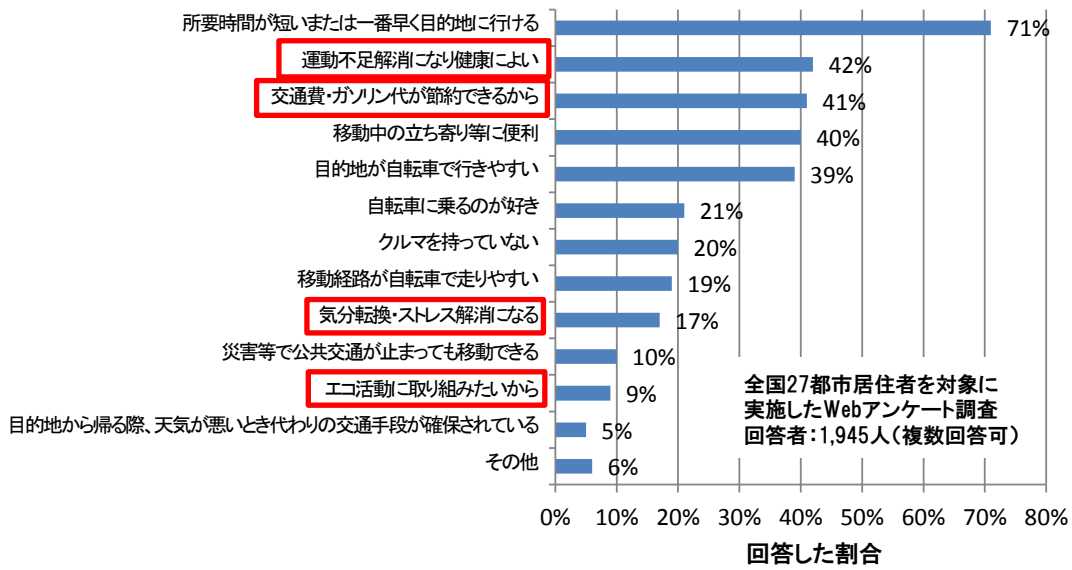
- スポーツ車、電動アシスト車等の販売台数が急増。
- 健康増進、環境保全等自転車を利用する理由が多様化。

■ 車種別販売台数の推移



【出典: (財)自転車産業振興協会
自転車国内販売動向調査】

■ 自転車を日常的に利用する理由



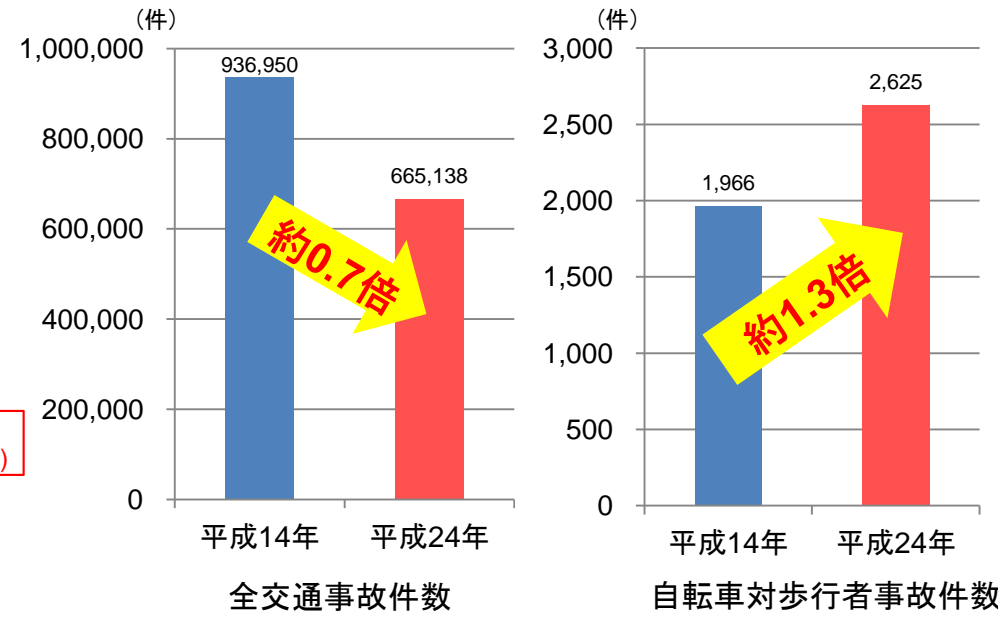
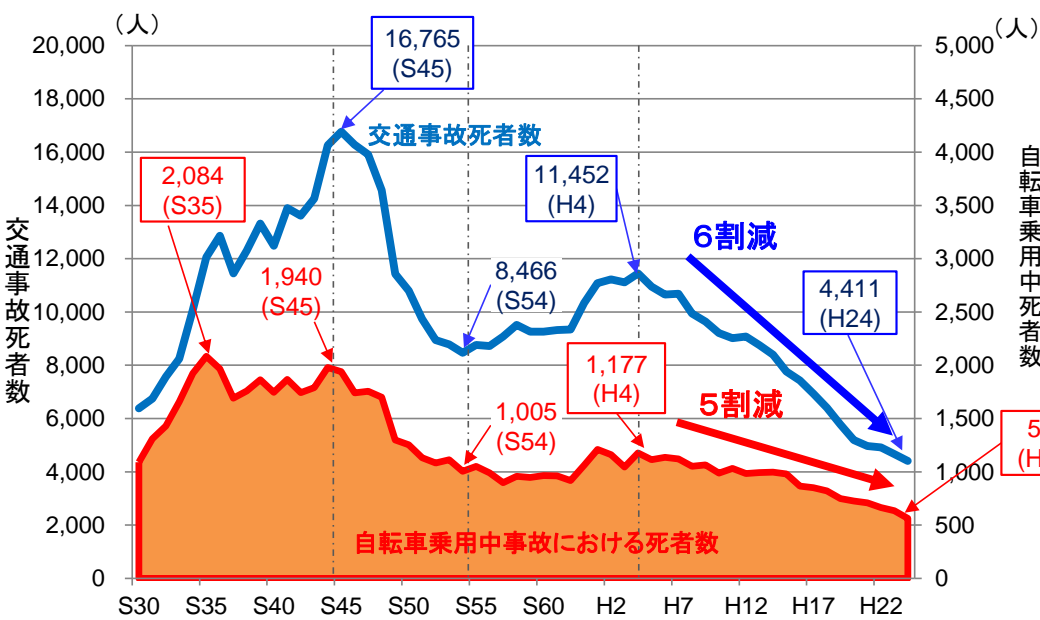
【出典: 国土技術政策総合研究所
平成24年1月実施のWEBアンケート結果より抽出】

自転車対歩行者事故の増加

- 過去20年間で交通事故死者数は6割減少。一方、自転車乗用中の死者数は5割減と減少幅が小さい。
- 過去10年間で交通事故件数は3割減少。一方、自転車対歩行者の事故件数は3割増加。

■ 交通事故死者数に占める自転車乗用中死者数の推移

■ 自転車対歩行者事故件数の増減



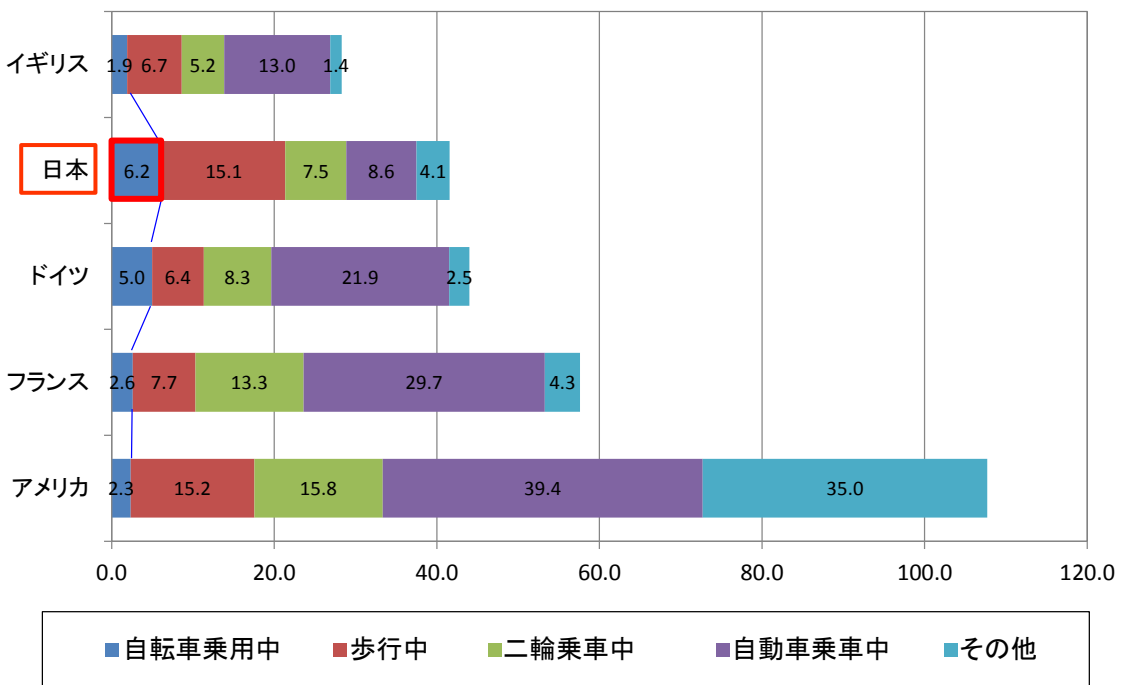
【出典:ITARDA交通事故統計データ】

【出典:ITARDA交通事故統計データ】

世界的にみて高い自転車乗用中事故の割合

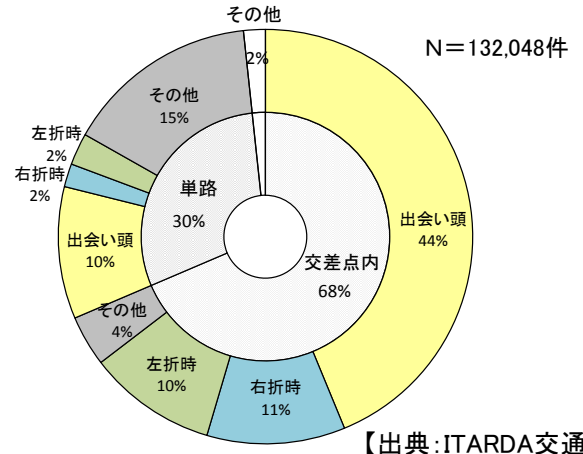
- 自転車先進国である欧米諸国と比較して、人口あたり自転車乗用中死者数の割合が高い。
- 自転車関連事故の7割が交差点で発生しており、出会い頭が最も多い。
- 出会い頭事故の発生確率を比較すると、車道左側通行が最も少ない。

■ 各国の人口100万人あたりの状態別死者数(H24)



【出典:IRTAD、Road Safety Annual Report 2014】

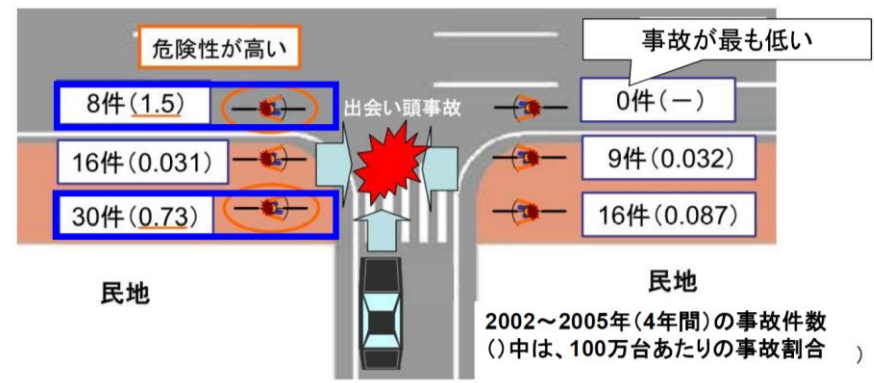
■ 単路・交差点別の自転車関連事故件数の構成割合(H24)



【出典:ITARDA交通事故統計データ】

■ 交差点における自転車事故の発生件数

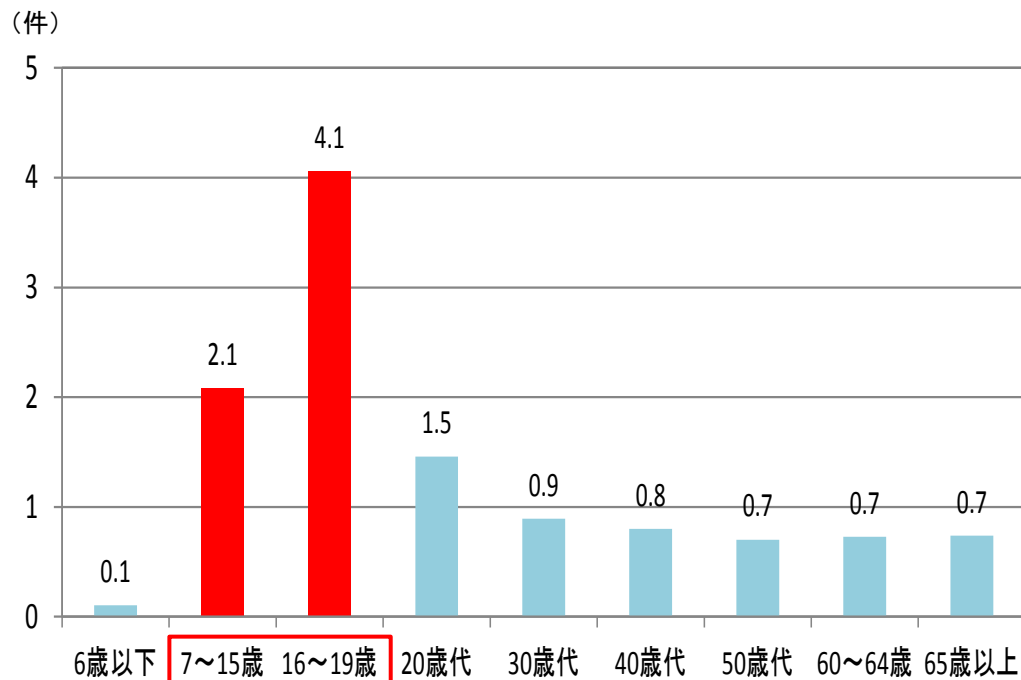
※ 東京都内のある国道での出会い頭事故件数と自転車交通量により、事故割合を算出。



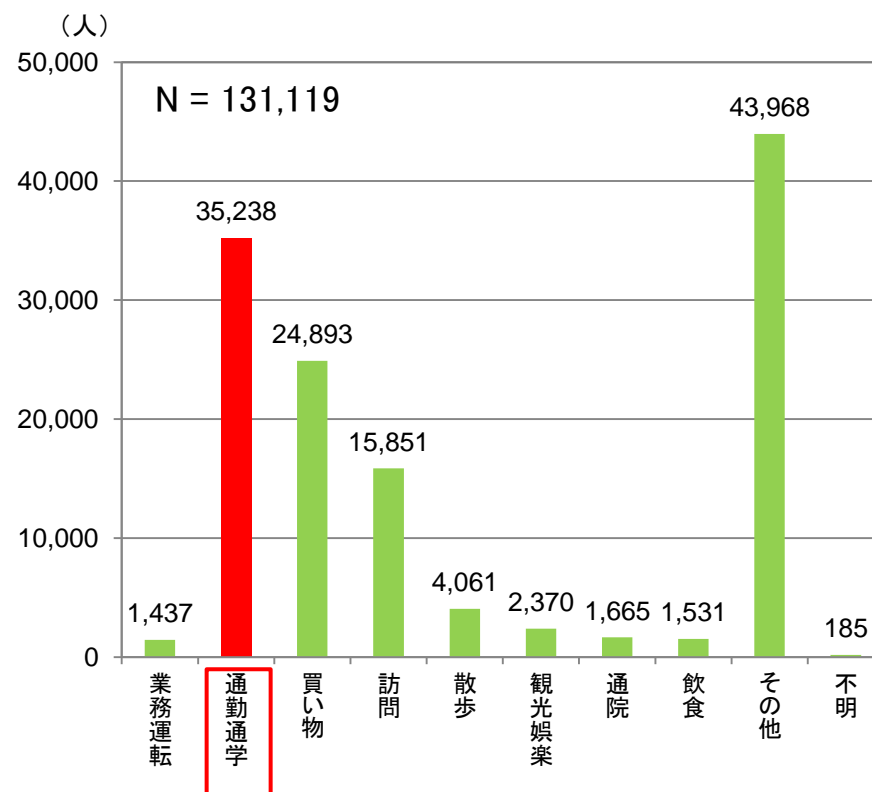
若年層の自転車関連事故の割合が高い

- 人口千人あたりの年齢層別事故件数は、7～19歳(小・中学生、高校生世代)の割合が高い。
- 利用目的別死傷者数(自転車乗用中)は、通勤通学の割合が高い(約3割)。

■人口千人あたりの年齢層別自転車関連事故件数(平成24年)



■利用目的別死傷者数(自転車乗用中)(平成24年)



【出典:ITARDA交通事故統計データ】